

## 2 RRロング管が「耐震適合性がある管の割合」として算定対象となる

公益社団法人日本水道協会「平成19年度 水道統計」において、RRロング継手を有する硬質ポリ塩化ビニル管が「耐震適合性がある管の割合」として算定対象となった。

また、翌年の「平成20年度 水道統計」において区分がRRロング継手、RR継手、その他不明の3種類として分類されることとなった。

下表は配水本管の例を示している。水道統計には導水管、送水管、配水支管についても整理している。

公益社団法人日本水道協会 平成22年度「水道統計（施設・業務編）」資料より抜粋、加工

(平成22年度) (単位:km)

区 分	配 水 本 管										
	配 水 本										配水本管総延長 (X'')に占める 耐震適合性がある 管の割合 (A'+B'+C'+D'+ E'+F'')/X'') (%)
	ダ ク タ イ ル 管			鋼 管		硬質塩化ビニル管		ポ リ エ チ レ ン 管			
	耐震管継手を有する (A')	K形継手を有するもの のうち良い地盤に 布設されている (B')	左記以外	溶接継手を有する (C')	左記以外	RRロング継手を有する (D')	左記以外	高密度 熱融着継手を有する (E')	左記以外		
100万人以上	1,858.8	624.5	4,375.4	1,072.9	-	-	-	-	-	35.4	42.9
50万人~100万人未満	344.5	272.5	822.1	71.0	15.6	-	-	-	0.1	23.5	38.7
25万人~50万人未満	890.2	825.0	2,923.4	447.9	44.6	-	32.9	1.3	0.5	24.6	39.5
10万人~25万人未満	804.6	606.0	3,767.7	172.1	48.2	0.5	214.3	32.6	5.5	16.1	25.6
5万人~10万人未満	690.1	1,289.7	3,170.3	97.2	126.5	147.7	1,395.7	53.1	33.1	11.4	30.7
3万人~5万人未満	334.1	665.7	3,166.3	118.4	106.1	64.8	2,180.0	97.3	92.1	7.7	17.8

注) ※1 耐震管の割合とは水道事業ガイドライン(JWWA Q100)の業務指標(PI)2210管路の耐震化率で定義されているもの。

※2 耐震適合性のある管の割合とは平成18年度管路の耐震化に関する検討会報告書(平成19年3月)において基幹管路(導水管、送水管、配水本管)が備えるべき耐震性能を満たすと評価された管の布設延長の割合。ただし地震の被災経験が少なく、十分に耐震性能が検証されていない管種、継手を含んでいる。